



## プレーパークは「生きる力」を育てる

プレーパークのモットーは「自分の責任で自由に遊ぶ」。既成のブランコや滑り台がある公園ではなく、大人が見守る中で木登りやたき火などができる場所です。

去る3月10日、御成台公園で開かれた「プレーパークわくわくの森おなりだい」にお邪魔しました。若葉区源町に「子どもたちの森公園」という常設のプレーパークがありますが、子どもだけで行くには遠すぎる地域もあります。そこで、千葉市の公園使用許可と消防署からたき火の許可をもらって、身近な公園でプレーパークが開ける仕組みが千葉市にはあるのです。

「子どもたちはたき火に興味津々。最初は大人から見ると危なっかしいこともありますが、だんだん慣れて、火との付き合い方を学んでいきます」と主催者の一人、千田さん。今回は「たき火で防災食を作って食べてみよう」というテーマで、飯ごうでトマトジュース味のシロツトや切り干し大根を作っていました。

災害時に温かい物を食べられることはとても大切です。もしも電気・ガス・水道が止まった時、たき火で調理できる人がいるかいないかで、地域の食事情は大きく変わってきます。プレーパークは子どもはもちろん、大人の生きる力や地域力を育てる役割



も担っているのだと実感できた1日でした。(岩崎明子)

持ち寄った食材をいろいろ焼けるたき火